

鎌倉楽しむ会

古都・鎌倉の散歩道

光触寺から ハギの寺・宝戒寺

パート ①

(集合) 鎌倉駅東口改札 9時50分

平成 27 年 9 月 30 日

金沢街道

● 鎌倉時代は武蔵國
六浦荘から塩や海産物
が鎌倉に運び込まれ、「塩
の道」と呼ばれていた
六浦道も、今では金沢街
道と名を変え、鎌倉と金
沢八景を結ぶ幹線道路と
して車の往来も多くなり
ましたが、脇道に外れて
小路を歩けば、静かに歴
史を語る史跡に出逢える
道でもある。



光触寺 (こうそくじ・時宗)

● 境内の一遍上人像です。時宗開
祖の一遍上人は、踊念仏を広め全国
を歩いて(遊行)「時宗」の布教活
動をした。弘安5年3月1日
(1282)、巨福呂坂から鎌倉に入
ろうとしたが、八代執権・北条時宗に
よって阻止されたといわれ、翌2日
には藤澤に移動して、4か月間滞在
し布教活動を行い、ここが、時宗の
総本山藤澤山無量光院清浄光寺とな
っていく。● 開基は時宗の開祖一
遍上人、開山は元真言宗の僧侶だっ
た昨阿上人。以来、念仏道場として栄
えたという。



● 本堂の奥にある庭園
は、初夏を彩るハナショ
ウブで有名。秋の彼岸花
も美しい。● お地藏さ
んが塩をなめたという言
い伝えのある塩管地藏が
ある

明王院 (みょうおういん)



● 真言宗御室派。鎌倉幕
府四代将軍・藤原頼経が嘉
禎元年(1235)、政所か
ら見て鬼門の方位にある
十二所に建立した。幕府は、
鬼門除け祈願寺として不
動、降三世、軍荼利、大威徳、
金剛夜叉の五大明王を祀っ
た。

● それぞれの明王
に大きなお堂があっ
たことから、古くか
ら五大堂と呼ばれ
る。五大明王を祀る
のは鎌倉市内でも明
王院だけ。
● 鎌倉時代から現
代まで祈願寺として
重んじられ、元寇の
際には異国降伏祈祷
が行われた。毎月二
十八日午後一時より
護摩法要が行われて
いる。

足利公方屋敷跡



● 鎌倉幕府が滅亡のとき、尊
氏が朝廷側に寝返ったのを怒
った北条高時が、足利屋敷に火
を放ち焼いてしまった。その後
建武2年(1335)に足利義詮が
ここに館を再建し「鎌倉公方」
となった。義詮が室町幕府の2
代将軍になり京都に引き揚げ
ると、義詮の弟・基氏が引き継
ぎ、そして、氏満、満兼、持氏
と代々ここに住んだ。

浄妙寺 (臨済宗)



● 建長寺派。鎌倉五山第五位。頼朝の重
臣、足利義兼が文治四年(1188)密教系
の寺として建立した。のち、頼朝、政子、
実朝も帰依した高僧・退耕行勇により、臨
済宗に改められ、寺名も浄妙寺となった。
境内は国指定史跡。

石窯ガーデンテラス



● 浄妙寺境内の高台
に、90年近い歴史を刻
んだ洋館を改装したカフ
ェ&レストランのお店。
石窯で焼くパンが美味し
い。ガーデンテラスでは、
庭に咲く四季の花を眺め
ながらお茶・食事が楽し
めます。

報国寺（臨済宗）



●「竹の寺」として知られる報国寺は、建武元年（1334）に創建。建長寺派。足利尊氏の祖父・家時を開基として開かれた。古くから孟宗の竹林が知られ、現在に至っている。数多く

の文化財を有しているが、中でも「東帰集」は仏乗禅師の偈頌（漢詩）約200篇を集めたもので、日本人によるまとまった偈頌集としては最初のものである。●竹林の他、三つ葉ツツジ、サツキ、セッコク、10月頃に咲く十月桜、等が目を楽ませさせてくれる。

あおとらじつな
青砥藤綱屋敷跡と

かわごえしげより
河越重頼屋敷跡

●鎌倉時代中期の御家人・青砥藤綱屋敷跡の碑が立つ。この屋敷の東隣が、河越重頼（義経の妻の父）の屋敷跡である。重頼は頼朝挙兵のときから源氏に属し、元暦元年（1184）義経に従って、木曾義仲を追討。平氏追討にも従軍して一の谷でも武功を重ねて、伊勢國香取五ヶ郷の地頭職

杉本寺（天台宗）



になった。妻は源氏二代將軍源頼家の乳母。娘は頼朝の媒介により、源義経の妻として上洛した。ところが義経と頼朝が不和になると、重頼も縁者として所領を没収されてしまった。

●坂東三十三所観音霊場の第一番札所で、鎌倉幕府が開かれる五百年近くも前に建てられた鎌倉最古の寺。杉木立の中、両脇に「十一面杉本観音」と書かれた白旗がはためく石段をのぼると、左右に仁王を配した茅葺の仁王門がある。
●天平三年（731）関東地方を歩いていた「行基菩薩」が自ら彫刻した像を安置した。

その後、光明皇后が夢の中で、「財宝を寄附して東国の治安を正し人々を救いなさい」と観音様のお告げを受け天平6年（734）に本堂を建立したといわれている。文治5年（1189）の火災で本堂が消失した時、三体の観音像が自力で大杉のもとに避難したという。その威力に杉の本の観音と呼ぶようになったという

滑川（なめりかわ）

●滑川は、朝比奈峠付近を水源として全長5.6kmの川である。流域は、十二所、浄妙寺、二階堂、雪ノ下、小町、大町、材木座と市街を流れて由比ヶ浜にそそいでいる。多くの支流をもち場所によって呼び名が変わる。上流から、くるみかわ、ざげんがわ、えびすどうかわ、すみ胡桃川、座禅川、夷堂川、炭（墨）売川、閻魔川と名を変え海にそそぐ。鎌倉時代には、舟で石や木材を鶴岡八幡宮付近まで運ぶのに利用されていたようだという。



宝戒寺（天台宗）



●初秋、清楚な白ハギが境内一面に美しい花を咲かせることから、「ハギ寺」として親しまれている。参道入り口には「北条執権邸旧蹟」の碑などが建っている。

●ここは北条屋敷跡。元弘3年（1333）、新田義貞の鎌倉攻めにより、北条一族は滅び、屋敷も焼かれてしまった。戦闘は悲惨を極め、敗退した北条一門は、屋敷の後方にあつた「東勝寺」に入り、北条高時以下、一族ら283人、総勢、約870人が自害したといわれる。「東勝寺」は全焼し廃寺となった。この「東勝寺跡」は、国指定史跡となっている。●北条一族が滅んだ後、建武2年（1335）、「後醍醐天皇」は「足利尊氏」に命じ、北条屋敷跡に、北条一族の霊を弔うために「宝戒寺」を建立した。

宝戒寺の白彼岸花



●宝戒寺の境内には、ハギのほかにも、多くの花が四季を彩る。白い彼岸花も美しい。

*参考文献:鎌倉の神社、鎌倉の寺、鎌倉観光文化検定テキスト、各寺社のHP